

# 花粉症のレーザー治療の実際

かさい はしむ  
 笠井耳鼻咽喉科クリニック院長 **笠井 創**

花粉の季節になると、多くの方が悩まされている。ひどい人になると眼や鼻の炎症以外に発熱までするという。日常生活や仕事にもかなりの支障をきたしている。

これまで花粉症の治療においては、抗アレルギー剤や抗ヒスタミン剤の内服薬や、点眼・点鼻薬を用いる対処療法が中心だった。しかし、眠気や胃炎・肝臓障害などの副作用を懸念して薬を使わずに過ごしている人も多いという。

近年、普及してきているレーザー治療は花粉症治療の特効薬となり得るか、笠井耳鼻咽喉科クリニック院長の笠井創氏にお話をうかがった。



## 普及のカギは 認知度を高めること

—花粉症の患者数はどれくらいなのでしょう。

**笠井** 厳密な調査が行われていませんので、はっきりしたことは言えませんが、国民の10%、つまり1200万人以上の方がスギ花粉症と推定されています。そして、発症していない人や遺伝的に発症することが予測される潜在的スギ花粉症患者は、その2~3倍の数になると考えられています。

ほとんどの患者さんは花粉のシーズンを我慢してこらえているのか、売薬で何とか過ごしているというのが現状でしょう。医療機関にかかって治療する人はスギ花粉症患者の半数以下で、そのほとんどが抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤の内服や局所ステロイド薬や抗コリン薬などの点鼻薬で対処し

ています。そして薬での治療ではコントロールできない、薬が合わないという一部の方に対して手術的治療法が用いられています。

—原因としては、どのようなものが影響しているのでしょうか。

**笠井** 外的な刺激としては排気ガスとか空気の悪さが影響しています。内的な要因としては、やはり高タンパクの栄養過多、つまり食習慣の洋風化ですね。動物性のタンパク質からアミノ酸ができ、それが抗体を作るための材料となりますから。また、血液中でのアレルギー反応においても、食物のうちで肉のタンパク質が一番アレルギー反応を起こします。

—笠井クリニックさんでは、花粉症やアレルギー性鼻炎で来院する患者さんのうち、レーザー手術を受けられる割合はどれくらいですか。

**笠井** 最初から希望してくる患者

さんはほとんどがレーザー治療を行います。そのほか、一般的な鼻の治療で来院される患者さんは薬物療法が大半なのですが、治療していく中でレーザー治療を知り、実際に受けられる方は外来患者全体の1割くらいですね。

—レーザー治療はいつごろから普及しだしたのですか。

**笠井** 炭酸ガスレーザー自体は20年くらい前に開発されましたが、保険適用がなかったためにあまり普及していなかったのです。96年4月から保険の適用となり、ここ2、3年で普及してきているのが実状ですね。

もっと普及してもよい治療法なのですが、まだまだレーザー治療自体が世間に知られていない、治療施設が限られているため希望しても受ける機会がない、耳鼻咽喉科の治療を嫌う方が結構いるなどの理由から、一般的になっていな